オリンピック・パラリンピック教育
成果アンケート調査

令和4年3月

アンケート概要

1 アンケート名称

オリンピック・パラリンピック教育における成果アンケート調査

2 調査目的

東京都オリンピック・パラリンピック教育実施方針に基づき、平成28年度より
全公立学校（園）おいてオリンピック・パラリンピック教育を実施してきた。
本教育の成果を明らかにするためにアンケート調査を実施

3 調査内容

「東京都オリンピック・パラリンピック教育」実施方針（平成 28 年1月）の内容に
基づいたアンケート

4 調査期間

令和3年8月～令和3年9月

5 調査方法

Webアンケートシステム及びエクセルファイルを使用し
4択設問からの回答及び記述による自由回答

6 調査対象及び対象校（全2,297校：有効回答数2,297校）

（1）都内全公立学校（園）の校（園）長
（2）オリンピック・パラリンピック教育を推進する都内こども園の園長

質問・回答（5つの資質の育成について）

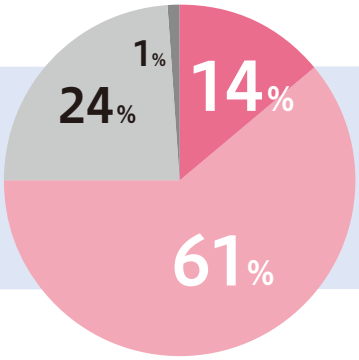
5つの資質とは

東京都教育委員会は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を、子供たちの人生にとってまたとない重要な機会と捉え、「東京都オリンピック・パラリンピック教育」を実施し、特に次の5つの資質について、重点的に育成してきました。

ボランティアマインド

「支える」活動を通じて、社会に貢献しようとする意欲や、他者を思いやる心などのボランティアマインドを醸成するとともに、子供たちの自尊感情を高めます。

Q 学校は、継続的・計画的に子供たちのボランティアマインドを醸成することができましたか。



- よくできた
- できた
- あまりできなかった
- できなかった

各学校で発達段階に応じて「ボランティアマインド」を効果的に育成することができたと、75%の回答者が「よくできた」又は「できた」と回答している。

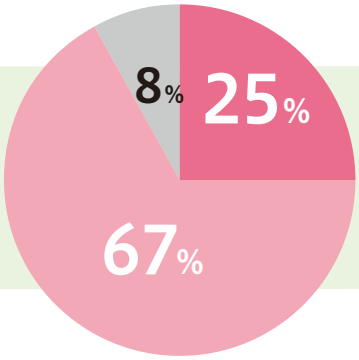
回答者の声

- 地域清掃や地域の祭礼におけるボランティア活動に自ら進んで参加するようになった。
- ボランティア活動を希望していたが、コロナ感染防止の観点から活動ができなかった生徒たちが、次に自分が何かのボランティア活動の機会があったときには是非参加したいという気持ちをもった。

障害者理解

障害の有無にかかわらず、共に力を合わせて生きる共生社会を実現するため、障害者理解の学習・体験や障害者との交流を通じて、多様性を尊重し、障害を理解する心のバリアフリーを子供たちに育みます。

Q 学校は、多様性を尊重し、障害を理解する心のバリアフリーを子供たちに浸透させることはできましたか。



- よくできた
- できた
- あまりできなかった
- できなかった

各学校において様々な取組を通じて「障害者理解」の資質を高めることができたと、92%の回答者が「よくできた」又は「できた」と回答するとともに、その中でも全体の25%が「よくできた」と回答しており非常に高い数値である。

回答者の声

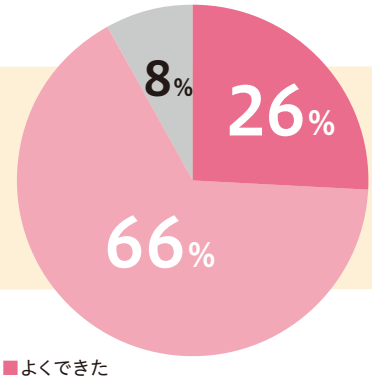
- 障害者スポーツを通して、障害に対する種類や程度についての知識・理解が深まり、共生社会を共に生きる社会の一員としての資質・能力を高めることができた。
- バリアフリーの視点をもって地域を再度見直したり、車いす利用者の方に声を掛け、自分のできることはないかと尋ねたりする児童が増えた。

質問・回答（5つの資質の育成について）

スポーツ志向

子供たちが様々なスポーツを体験することにより、フェアプレーやチームワークの精神を育み、心身ともに健全な人間へと成長させます。

Q 学校は、子供たちに様々なスポーツを体験させ、体力の向上や健康づくりに自ら意欲的に取り組む態度を養うことはできましたか。



- よくできた
- できた
- あまりできなかった
- できなかった

様々な体験活動を通じて、「スポーツ志向」の資質を高めることができたと、92%の回答者が「よくできた」又は「できた」と回答するとともに、その中でも全体の26%が「よくできた」と回答しており非常に高い数値である。

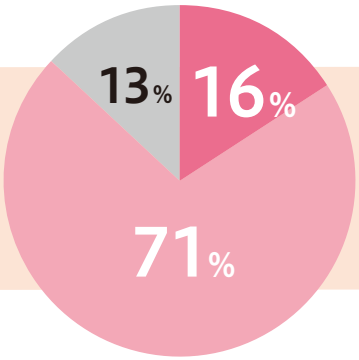
回答者の声

- アスリートの指導を通して、積極的にスポーツや運動に参加する児童が増えた。将来、スポーツ選手になりたいという考えを、堂々と発言する姿が見られた。
- 自らの目標に向かって継続して努力する姿勢が見られた。

日本人としての自覚と誇り

日本や東京の良さを十分理解するとともに、規範意識や公共の精神等を学び身に付けることにより、日本人としての自覚と誇りをもてるようにします。

Q 学校は、子供たちに自分を見つめ直し、日本人としての自覚と誇りをもてるような教育を進めることができましたか。



- よくできた
- できた
- あまりできなかった
- できなかった

様々な体験や活動を通して、「日本人としての自覚と誇り」を効果的に高めることができたと、87%の回答者が「よくできた」又は「できた」と回答している。

回答者の声

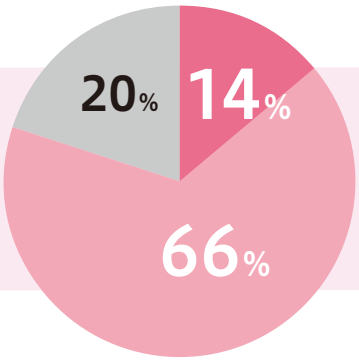
- 地域学習を推進することで、地域理解を深め、故郷を大切に思う心情を養うことができた。
- 日本人としての自覚と誇りが高まり、茶道、書道、落語、民舞、琴などを喜んで学ぶ児童が増えた。

質問・回答（5つの資質の育成について）

豊かな国際感覚

世界各国の人々と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、豊かな国際感覚を醸成し、世界の多様性を受け入れる力を育みます。

Q 学校は、子供たちに豊かな国際感覚を育成することができましたか。



- よくできた
- できた
- あまりできなかった
- できなかった

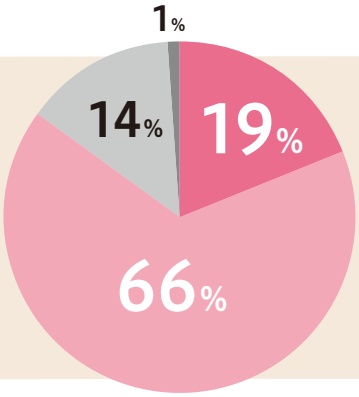
様々な国際交流活動等を通して、「豊かな国際感覚」を育成することができたと、80%の回答者が「よくできた」又は「できた」と回答している。

回答者の声

- 世界ともだちプロジェクトで学習した国をはじめ、様々な外国の文化に関心をもつなど、豊かな国際感覚が高まった。
- 他国の生徒との交流活動の中で、自国の文化を紹介したり、SDGsについての意見を交流したりする中で、豊かな国際感覚を高めることができた。

質問・回答（計画的・継続的な教育展開について）

Q 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、安全・安心な学習活動のために、教育活動を工夫しながら、「オリンピック・パラリンピック教育」を進めることはできましたか。



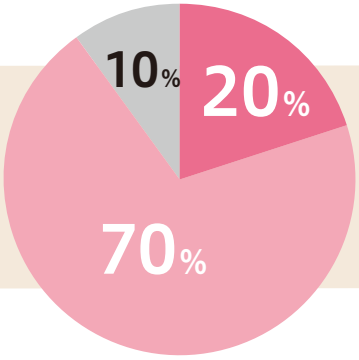
感染症対策を実施しながら工夫して教育活動を推進できたと、85%の回答者が「しっかりと工夫して進めることができた」又は「工夫して進めることができた」と回答している。

- しっかりと工夫して進めることができた
- 工夫して進めることができた
- あまりできなかった
- できなかった

回答者の声

- 自己肯定感を高めることのできる機会を大切にし、コロナ禍であっても、どのような工夫をすれば実施できるのか検討し、教職員の全体の叡智を結集して推進した。
- 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、子どもたちが実際に取り組んだり、交流したりする活動を少しでも取り入れるようにした。

Q 学校は、東京2020大会と、更にその先を見据え、計画的・継続的に教育を展開することはできたと思いますか。



計画的・継続的に教育を展開することができたと、90%の回答者が「とても思う」又は「思う」と回答している。

- とても思う
- 思う
- あまり思わない
- 思わない

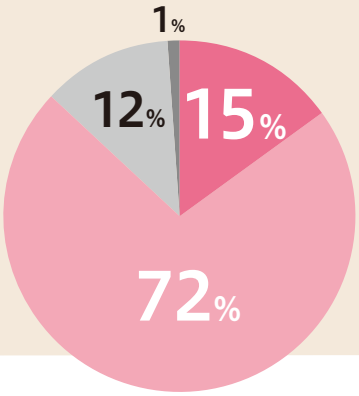
回答者の声

- 各教科等の学習と関連させて、東京2020大会後も継続できるような年間指導計画をたてた。
- 東京2020大会に向けて、学校では創意工夫して授業を計画的に行い、子供たちもたくさん学んだ。とても思い出深いものになったと思うし、これからの子供たちの人生に生かされるとも感じる。

質問・回答（計画的・継続的な教育展開について）

Q

「オリンピック・パラリンピック教育」を通して培ったノウハウや人的ネットワーク等を活用し、学校における多様性への理解、国際交流、伝統・文化理解、ボランティア等などの取組を、大会後も長く続く教育活動（学校 2020 レガシー）として発展させていくことはできますか。



大会後も長く続く教育活動（学校 2020 レガシー）として発展させていくことができると、87%の回答者が「しっかりできる」又は「できる」と回答している。

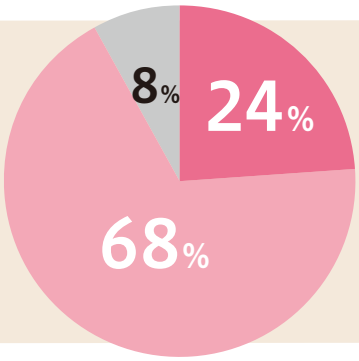
■しっかりできる
■できる
■あまりできない
■できない

回答者の声

●これだけ長い年月にわたり、大きな目標をもって取り組んだ教育活動はなかった。オリンピック・パラリンピック教育を通して充実させることができた教育活動は、今後も継続し、オリンピック・パラリンピックのアスリート招へいや、伝統文化活動、ボランティアマインドなどを計画的に継続・発展させていく。

質問・回答（レガシーについて）

Q 「オリンピック・パラリンピック教育」を通して、子供たち一人一人の心と体に、人生の糧となる掛け替えのないレガシーを残すことができたと思いますか。



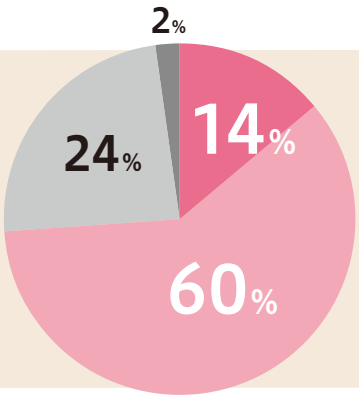
子供たち一人一人の心と体に掛け替えのないレガシーを残すことができたと、92%の回答者が「とても思う」又は「思う」と回答している。

- とても思う
- 思う
- あまり思わない
- 思わない

回答者の声

●オリンピック・パラリンピック教育がなければ、出会うことのなかった選手や講師の方からの話や、体験は貴重で、生き方や考え方など、子どもたちの心に深く残ったと考える。

Q ボランティアマインドの醸成や障害者理解の取組を家庭や地域へ波及させ、子供たちだけでなく、大人たちのボランティアマインドや障害者理解を高め、ひいては共生・共助社会の形成につなげていくことはできたと思いますか。



共生・共助社会の形成につなげていくことができたと、74%の回答者が「とても思う」又は「思う」と回答している。

- とても思う
- 思う
- あまり思わない
- 思わない

回答者の声

●外国籍の方、障害のある方、LGBTQを含め、様々な人がいる中で皆で力を合わせて生きていく心が育成された。

総評

オリンピック・パラリンピック教育に関わる体験や活動を通して、子供たち一人一人の心と体に、人生の糧となる掛け替えのないレガシーを育むことができた。本教育を通じて蓄積されたノウハウや人的ネットワーク等を活用した様々な取組は、東京2020大会後も長く続く教育活動となり、本教育の成果や取組は、長くレガシーとして残るものである。また、家庭や地域と連携したボランティアマインドの醸成や障害者理解の取組は、子供たちだけではなく、大人たちのボランティアマインドや障害者理解も高め、共生・共助社会の実現への一助となるなど、様々な面でレガシーを残すことができたと考える。